

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1089 2010 年 12 月号

低コスト作業路網作設研修会を開催



四国森林管理局では、低コストで壊れにくい作業路作設の普及・定着を図るため、林業事業者の職員（重機オペレーター）等を対象に研修会を実施しました。【詳細は2ページに掲載】



講師による実演指導



路肩の確認



実地研修の様子



INTERNATIONAL YEAR OF FORESTS - 2011

2011年は国際森林年です

**国有林野等所在
市町村長連絡
協議会を開催
〈企画調整室〉**

一月一〇日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に年に一度開催しているものです。会議には管内七署(所)の有志協議会(国有林が所在する市町村で構成する署毎の協議会)の代表世話人である市町村長、宮原局長をはじめとする局幹部、林野庁から鈴木経営企画課長、池淵木材利用課長が出席し、協議会会長である上治馬路村長の議事進行により、「森林・林業再生プランの推進について」をテーマに意見交換

を行いました。
代表世話人からは、各
有志協議会での議論を踏
まえ、

○森林整備において、切捨
間伐から利用間伐への
切り替えは必要と考え
るが、切り替えるだけ
なく雇用が増加する方
策として欲しい。

○ニホンジカなどの野生
鳥獣による被害が増加
しており、国有林でも実
施できる獣害対策、ある
いは共同で実施できる
対策を積極的にお願
したい。

○公共施設の木造化につ
いて、学校における倉庫
や外構など、小規模な建
物についても「公共建築
物木材利用促進法」によ
る支援をお願いしたい。
○林業のコスト削減につ
いては、川上はもう限界
にきている。木材価格下

落のしわ寄せは全て上
流側に来ており、これ
は儲かる林業、魅力ある
職業にならない。

○ドイツ並みの路網整備
は四国のような急峻な
地形では難しいので、地
方ごとに配慮したプラ
ンづくりに努めていた
だきたい。

などの意見・提言があり、
熱心な意見交換が行われ
ました。四国森林管理局と
しても、こうした意見を踏ま
えつつ、昨年からの政府で
検討が行われてきた、我が
国の森林・林業を再生し、木
材自給率五〇%を目指す

「森林・林業再生プラン」
に沿って、「国民の森林」と
して相応しい国有林の管理
経営を行っていきよう、
今後とも民国の連携を強化
しながら取り組んでいきま
す。



会議の様子

**低コストで
壊れにくい作業路の
作設の定着を!
〈局販売課〉**

路網と高性能林業機械を
組み合わせた低コストで効
率的な間伐作業が推進され
ている中、本作業に対応し
た作業路の整備がますます
重要となっております。

このような中、四国森林
管理局では、管内各署(所)
と共同で低コストで壊れに
くい作業路作設の普及・定
着を図るため、林業事業体
の職員(重機オペレーター)
等を対象に研修会を実施し

ました。
研修会には、延べ六三事
業体、六自治体、一独立行
政法人から一八六名の参加
がありました。

研修会は、地域の条件に
応じたきめ細かな研修を
実施するため、管内を徳島・
香川、愛媛、四万十、嶺北、
高知中部、安芸の六ブロッ
クに分けて実施しました。

講師は、林野庁主催の路
網研修会等で優秀な成績を
修められた(株)高知官材の
門脇清慶さん、四国林産
(株)門脇正文さん、(株)あす
なる四国支社の松浦幸一さ
ん、(株)高知林業の小野川
高史さんに依頼しました。

当日は、作業路作設の基
礎技術である地山の掘削と
切り取った土砂の盛土に関
する説明と、それに合わせ
て講師による実演により、
盛土基礎部の締め固め、表
土のはぎ取り方、盛土の仕

方、キヤタピラによる転圧方法など作業ポイント毎に分けて、具体的に、わかりやすく実演指導し、その後、数名の参加者に実際にバックホウを運転して、実習していただきました。

さらに、午後の意見交換会では、「低コストで壊れにくい作業路作設のために」をテーマに、各林業事業者が作設に当たり留意していることについて意見交換を行いました。「壊れにくい道づくり」について、『盛土の細かな転圧』『路体全体の掘削・転圧』『細かな排水処理等』について留意しているとの意見がありました。

また、「低コストな道づくり」について、踏査や簡易測量による線形調査を重視し、通過するポイント、通過してはいけないポイント、丸太組工等の構造物の作設を必要最小限にするなど、線形の確定について各事業

体が創意工夫していることが分かりました。

今回の研修を通じて、各事業者のオペレーターの方々には、日頃の作業路作設で培われた技術に加えて、作業路作設の理論も習得し、よりレベルの高い作業路作設していただくとともに、森林管理署職員には、路網作設の技術や理論に対する理解を深め、今後、さらに的確な監督業務を行い、低コストで壊れにくい作業路作設の促進を期待しているところです。



作業路の作設実習を行う参加者

南小川地区沖(下)
地すべり対策現地
検討委員会を開催
〈治山課〉

高知県大豊町の南小川地区民有林直轄治山事業地において、一〇月一三日に大学教授等の委員と行政側の委員を交え、沖(下)地すべり対策の現地検討委員会を開催しました。

沖(下)地すべり地は、斜面長、幅とも五〇〇以上、面積約二五畝の地すべりで、地すべり地内には民家、国道等の重要な保全対象が含まれており、地元住民からも早急な対策が望まれています。

検討委員会は専門家等の幅広い意見を集約して、今後の対策方針を定め事業の効率化を図ることを目的とし、現地で地すべり地内のクラックや施設の被害状況を確認するとともに、現地

検討の結果を踏まえた討議を行いました。今後の対策については、地下水排除工により地すべり活動を抑制し、目標安全率を確保していく方針で意見集約されました。

【検討委員会の構成】

- 『座長』
土屋 智(静岡大学農学部教授)
末峰 章(京都大学防災研究所准教授)
落合 博貴(森林総合研究所水土保全研究領域長)
森 健太郎(高知県林業振興・環境部治山林道課長)
坂田 幹人(四国森林管理局森林整備部長)
石黒美津雄(四国森林管理局嶺北森林管理署長)
澤田 茂隆(四国森林管理局治山課長)



地すべり検討委員会

「高知もくもくランド」開催
〈指導普及課〉

「エコロジーで家族に優しいハウスライフ」と銘打って、「第六回高知もくもくランド2010秋まつり」が、高知県及び高知県木材普及推進協会の主催で高知市仁井田の高知木材センターで一月一三日、一四日の二日間に渡り開催され、期間中一万五千人の人で賑わいました。

この催しは、高知県産材の普及を目的に開催され、木造

住宅の設計者、工務店、木材店、太陽光発電やエコ製品などを扱う様々な六〇業種の企業等が出展しました。

また、エコポイントや、住宅相談、地震対策、リフォーム相談など、木材を使った建築に関する総合的な相談会場にもなっています。

今年、高性能林業機械のデモンストレーション作業など林業のPRも行われました。

当局の木材の良さをPRするパネル展示と、昨年大人気の、間伐材の板を糸ノコでくり抜いた「クリスマス壁飾り」に「正月の門松飾り」を加えた木工教室は今年もオープン前から親子連れの行列が夕方まで続き、用意していた材料の板が底をつくほどの四百名を越える来場があり、

二日間とも大忙しでうれしい悲鳴でした。

会場内では、木造住宅の軸組の模様の展示や、パークラフトなど子供さんも楽しめるコーナーも多く出展され、住宅エコポイントやオール電化住宅などが開催され大盛況の中、二日間のイベントを終えました。



開会式

原木から住宅建築までを巡る地域材発見ツアー及び森林ボランティア活動入門講座(最終回) <指導普及課>

一一月一四日、高知県本

山町及び土佐町内において、地域材を使用した木造建築や木造住宅に関心のある方を対象とした「地域材発見ツアー」を実施しました。

このツアーは、再生可能な資源である木材を、住宅や家具等に利用していくことは、森林の適切な整備につながり、地球温暖化防止に貢献することから、木材利用の理解の促進を図る取組として実施したものです。

ツアーには、中高年を中心とした一般参加者一名と、七月から行っている森林ボランティア活動入門講座の最終回(第三回目)の木材利用受講者六名の計十七名の参加があり、嶺北木材協同組合の協力をいただき、嶺北地域で生産された木材が住宅建築に至るまでのシステムを見学しました。はじめに見学した嶺北木

材市場では、森林から生産された木材がどのように分別されているのか、スギの強度や丸太一本の値段、一本ごとの性質の違い等について説明がありました。参加者は、強度実験結果から、嶺北スギの強度が他の樹種より優れていることに感心するとともに、丸太一本の値段の安さに非常に驚いていました。

続いて製材工場とプレカット工場を見学しました。参加者は、日頃見ることのできない施設の説明に熱心に耳を傾けていました。製材工場では、「木もく良心市」(製材工場で生産された余った端材を販売している)を見学した際、市価の三割程度で購入できるため驚いていました。

最後に、建築中の住宅(れいほくスケルトン)を見学しました。参加者は、原木

から製材工場、プレカット工場を経て、実際に建築されている嶺北スギをふんだんに使った住宅に触れ、その素晴らしさを実感したようでした。特に、建築費用はどれ位かかるかなど、建築に向け具体的な質問がありました。

参加者の感想として、「森林から生産された木材が、どのように加工され使われているのか大変勉強になりました。」との話がありました。



住宅(れいほくスケルトン)説明の様子

**木を使ったおもちゃ
遊び及び木工教室
〈指導普及課〉**

一月二一日、高知県土佐市立高岡第二小学校において、木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室を実施しました。

これは、山の手ふれあいフェスタ実行委員会から校区のイベント「第六回山の手ふれあいフェスタ」の体験学習コーナーの一つとして四国森林管理局に木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室の依頼があったものです。

当日は、木製のけん玉など十種類のゲームをクリアすると木工教室に参加できることとし、児童約七〇名が参加しました。
なかには、ゲームに三回チャレンジする児童もあり大盛況でした。
また、木製ゴムてっぽう

射的大会を四回開催し約五〇名の児童が参加しました。今回のイベントは、児童に対して木の良さを体験してもらうものであり、国有林野事業のPRにも努めました。



ゴムてっぽう射的大会の様子

**鳶ヶ池中学校一年生
について学ぶ
〈指導普及課〉**

一月二二日、高知県南国市立鳶ヶ池中学校一年生五九名が、中学校が所有する学校林で、森林の働き等を学習しました。

同校の生徒は、三年間で学校林の歴史、森づくりを学び、学校林の整備を体験します。

今回は、一年生が「学校林の歴史」「森林の働き」「森で遊ぶ」を体験しました。

授業は、まず、同校の先輩から「学校林の歴史」を学び、次に四国森林管理局が、「森の働き」について水の浸透実験装置を使った実験を実施しました。

生徒達は、森林による水の浄化作用と、保水能力を実験装置により視覚で体験でき、その仕組みがより理解できたようでした。

最後は、学校林の立派に育った樹齢五〇年以上のスギやヒノキに登る体験（ツリークライミング）をとおして、木や自然に親しみました。最初は、尻込みする生徒が多かったものの、慣れると順番待ちの行列が出ていました。



水の実験の様子

また、三年生になると、清纯寮（学校林寄宿舎）で一泊して下刈作業等を実施する体験林業プログラムがあります。
同校では、学校林を基盤として、森と触れあい、木を使い、森をささえ、森と暮らすという、まさしく美しい森づくりの精神を実践しています。
今後とも、このような取り組みに当局としても積極的に協力して行きたいと考えています。

各地のたより

**神奈川の女子高校生が
黒尊川流域で
フィールドワーク
〈ふれあいセンター〉**

一月九日、横浜市の神奈川県園高校二年生三六名が、今年で一〇年目となる四万十川フィールドワークに、四万十川の支流、黒尊川源流域の「八面山」をフィールドにして、森と川の関係、自然や環境などについて学習しました。

当日は、あられが降る寒い中での森林教室となりましたが、生徒達は、職員が歩道沿いの樹木の特徴やニホンジカの食害などについて説明すると、熱心にメモを取ったり、デジカメに収めていました。
午後は、民有林に移動して間伐を体験しました。最初に、当所職員が安全作業と間伐